

琵琶湖漁業資源の安定化対策の強化



【提案・要望先】農林水産省

1. 提案・要望内容

(1) アユ増殖対策への支援

- 琵琶湖のアユ資源が不安定化しており、本県が実施するアユの増殖対策への支援および不安定化要因解明への技術的支援

(2) 外来魚駆除の強化

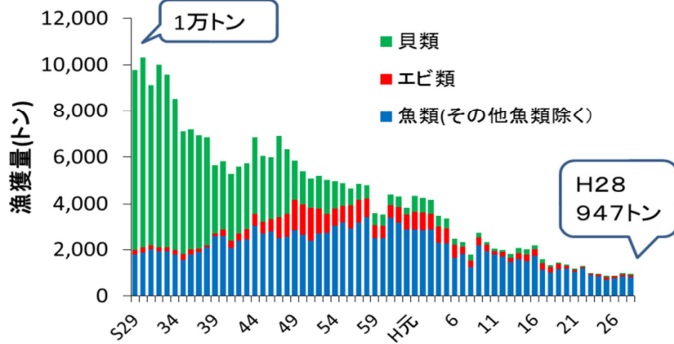
- オオクチバス等の外来魚による漁業や生態系への被害を防止するため、駆除対策への支援の拡充と国による外来魚防除の実施

2. 提案・要望の理由

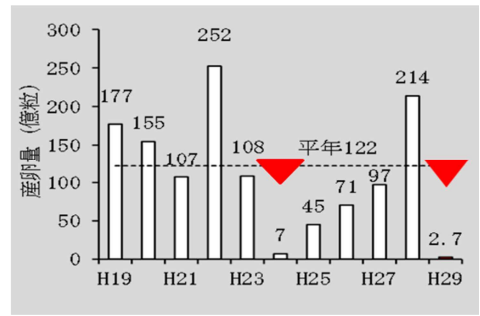
- 「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」において、琵琶湖は水産資源の宝庫であり国民的資産と位置付けられている。
- 最重要魚のアユについて、平成 24 年の産卵激減に続き、平成 29 年の極端な不漁とその後の産卵激減など、資源が不安定化し本県アユ漁業に大きな打撃となっている。
- 湖産アユは縄張性が強く友釣り用として人気があり、全国からの需要が多いが、今回の不漁により、需要を満たせなくなるなど、全国の内水面漁業にも大きな影響を与えている。
- 不漁の原因については、国立研究開発法人水産研究・教育機構の技術的助言をいただきながら、解明を続けているところ。
- このことから、アユ産卵用人工河川を活用した増殖対策への財政的支援と、引き続きアユ資源の不安定化をもたらす原因解明への技術的支援をお願いしたい。
- 一方、琵琶湖の外来魚生息量は積極的な駆除の取組により減少傾向にあったが、平成 25 年を境に増加に転じている。
- これを着実に減少させるには一層強力かつ生息量に応じた駆除が必要であり、気象条件等の要因による年間駆除量の変動にかかわらず、必要な駆除計画量に応じた予算措置をお願いしたい。
- オオクチバスやブルーギルについては、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」において、主務大臣等が防除を行うとされている。
- このことから、琵琶湖の外来魚について、国による防除に取り組みたい。国の防除が困難な場合には、県が補助している県漁連の防除事業に対して支援の拡充をお願いしたい。

(本県の取組状況と課題)

(1) 琵琶湖漁業の漁獲量の推移とアユの状況

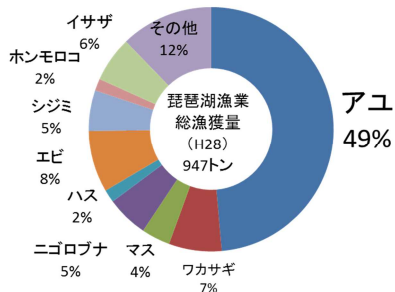


漁獲量は1万トンから1千トンに減少
水産資源の回復と水産業の再生が急務



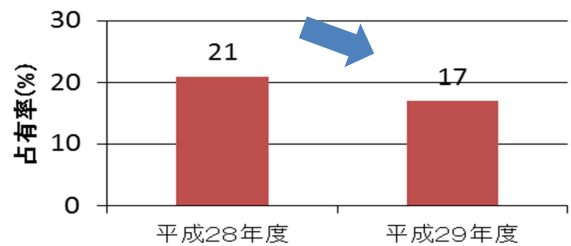
アユの産卵数が平成24年と平成29年に激減するなどアユ資源が非常に不安定となり、県内漁業、養殖業、加工業のほか、全国の内水面漁協に大きな打撃

(2) 琵琶湖漁業に占めるアユ漁獲量



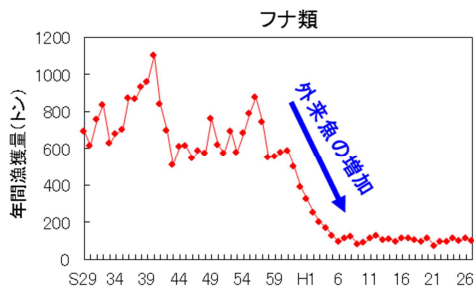
琵琶湖漁業にとって、アユは漁獲量の半数を占める最重要魚種

琵琶湖産シェア(放流用種苗)

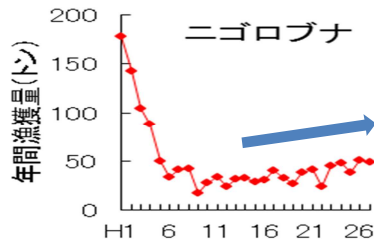


シェアが低下(21%→17%)し、全国の需要を満たせない状況

(3) 外来魚がフナ類に与える影響

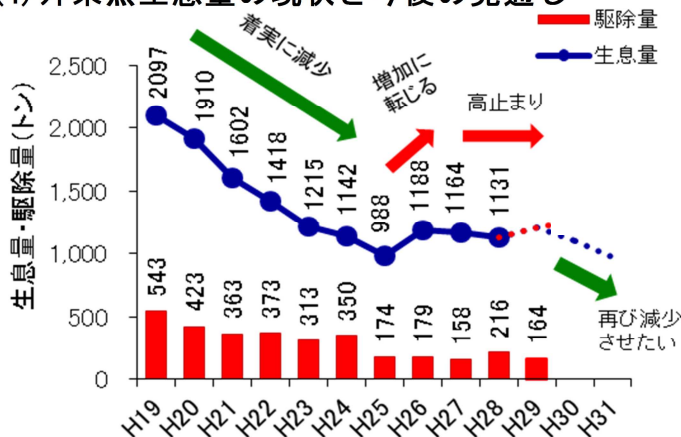


特にフナ類はオオクチバスやブルーギルと生息域が重なり、漁獲量の減少の大きな要因



ニゴロブナは近年、増殖対策が功を奏し、増加傾向にある。外来魚駆除によりさらに着実な増加が見込める。

(4) 外来魚生息量の現状と今後の見通し



- ・H25まで着実に生息量を減少させたが、H26に増加に転じ、その後、1,150トン前後で推移。
- ・生息量を減少に転じるには一層強力な駆除が必要。
- ・H24までの駆除量は300トン以上の計画量を達成。
- ・H25以降は、天候や水草の繁茂などにより計画を下回ることがあった。駆除量の変動にかかわらず、生息量に応じた駆除が必要。